

## 令和5年度 自己評価・施設関係者評価表

## 評価項目の達成及び学校関係者評価

評価項目	実態分析・考察 (○) 改善案 (★)	施設関係者評価委員の意見
<b>〈情報提供〉</b>		
① 保護者や地域に向けて、園の情報が分かりやすく伝えられている。	○保護者宛て文書を紙から電子に変更することにより資源を節約できた。また、保護者から文書確認がしやすくなったと評価。 ○アプリの活用により、緊急時の情報提供が、適時適切に行えた。 ○ホームページを利用し、日々の子どもの様子を丁寧に提供することで、地域・保護者に情報提供を行うことができた。 ★内容による、提供する文書の精選が必要	・保護者との連絡システムを活用した文書連絡は、SDGsを念頭に置いた取り組みとして評価できる。 ・HPを毎日更新し、園での活動を随時保護者、地域に発信できている。 ・園庭開放などの企画もきめ細かに立てられており、子育て世代の支援も充実している。
② 保育者は、登降園時やクラス懇談の際に子どもの様子をよく伝えている。	○職員全体で園児を見守り育てる意識を高く持ち、子どもの様子や変化を把握しようとしている。 ○登園時、保育室担当以外の職員で迎え、登園口にて声掛けを実施することで、保護者との対話が充実できている。 ○担任と連携をとりながら、保護者に子どもの様子を伝えている。また、年に2回（6・12月）懇談会を実施している。 ★バス利用園児保護者との対話環境の工夫	・保育室出入口のホワイトボードを活用しお迎えの保護者に対しその日の様子を分かりやすく伝えている。 ・個人懇談会や日々の連絡等の際、一人ひとりの子どもの様子を具体的に伝えている。
<b>〈保育活動〉</b>		
③ 育ちの上で必要な、子どもが楽しんで参加できるような行事がある。	○行事の開催方法を見直したことにより、発達段階に合った時間設定や、参観者の混雑を避ける座席工夫等の改善が図れた。 ○環境設定を工夫し、子どもたちの発言を取り入れた保育をすることにより、主体的な姿勢を育てることができた。 ★園外保育に適切な場所の検討	・子どもが主体的に取り組めるよう表現活動を重視した行事づくりができている。 ・毎月実施している誕生会は、どの子どもも主役になれる場として、充実した運営が図れている。また誕生月の子らの保護者には、参観できる環境を確保するなど、きめ細かな対応が評価できる。
④ 友だちと仲良くする気持ちを育てようとしている。	○子ども同士のつながりを大切にした「異年齢保育」を月に一度実施したことにより、社会性や協調性、他者を思いやる心の育ちにつなげることができた。 ★預かり保育時間も通常保育と同様に「異年齢保育」の取り組みを継続的・計画的に実施する。 ★通常保育・預かり保育で実施する「異年齢交流」内容の連携と工夫	・新たな取り組みとして導入した異年齢保育は、工夫された活動内容により互いを思いやる心の育ちにつながっている。 ・保育者の適宜適切な言葉がけにより、安心して活動できる環境が作られている。

〈子どもの姿〉		
⑤ 子どもは園での生活を喜び、楽しんで通っている	○簡単な手遊びや歌、クラス全体での遊び等、場や材料、遊具等の工夫をすることで友だちとのやり取りを楽しめる環境設定ができた。 ○絵本・図鑑を保育室やホールを活用し十分に準備することで、子どもの探究心向上を図ることができた。 ★自然物を使った遊び環境の充実	・「遊びを通した保育活動」を念頭に研修を積み重ねた成果が感じられる環境設定の工夫がある。 ・保育者や子どもたちとの信頼関係を元に安心して過ごしていることが伺える。
⑥ 日々の活動を通して、子どもの心身の成長を感じることができる。	○家庭では経験できない体験や、年齢の近い他者とのかかわりの中で、充実感・達成感・満足感を味わうことができている。 ○年齢の近い仲間とのトラブルを経験し、解決することで自尊感情の醸成ができた。	・保育士による工夫された多くの行事や活動を通し、感動を共有したり興味関心の幅を広げたりしながら、充実感・満足感を味わわせることができている。
〈保育者〉		
⑦ 保育者は、子どもや保護者に適切な言葉遣いや温かな態度で接している。	○一人ひとりの成長を教職員全員で共有し、きめ細やかな対話を心がけ実施している。	・保育時はもとより、いかなる時にも、適切な態度・言葉遣いを意識した対応を心がけていただきたい。
⑧ 保育者は、仕事にふさわしい身なり節度ある行動・態度が取れている。	○職員間で声を掛け合い、保育者としてふさわしい服装や身なりであることの大切さを認識し合っている。また、動きやすい服装を心がけている。	・保育者自身が、保育環境の一部であることを心得、常に自身の姿を俯瞰した行動を期待している。
〈安全管理〉		
⑨ 園は、集団生活に必要な、きまりや約束を指導している。	○基本的な生活習慣が身につくよう、全体での指導を実施するとともに個別適切な指導を心がけている。	・日々の保育を通し、基本的な生活習慣が身に付けられるよう工夫できている。 ・社会的ルールを学ぶことができている。
⑩ 園は、地震や火災などに対して、避難訓練や対策をしている。	○火災・地震・不審者等の避難訓練を計画的に実施している。(年間13回) ○防災頭巾の日常的使用 ★災害発生時の引き渡し訓練の実施	・毎月避難訓練を実施することにより、必要な行動を理解し、実行できるよう育てることができている。
〈環境整備〉		
⑪ 園は、子どもにとって楽しんで遊べる教育・保育環境の工夫をしている。	○毎月、安全点検を行い、危険個所の早期発見に努め、園務員と連携しながら敏速に対応している。玩具等の保育環境に必要な用具は、子どもたちが新たな遊びの展開ができるよう、毎年見直しを行い安全面を考慮しながら充実を図っている。 ★老朽化した園舎及びトイレの全洋式化改修工事を、令和6年度夏季休業時期を利用して実施予定 ★栽培活動用推進のため、耕作地の造成と現在活用中の新運動場を活用した栽培の工夫	・各教室では、活動の目的に応じて、活動が楽しめるよう、机や椅子のレイアウトを工夫することができている。 ・園庭やプレイルーム等を適切に利用し、自由遊びの時間を充実させることができている。今後も工夫し継続いただきたい。

<p>⑫ 疑問や希望、苦情等の窓口が整備され、適切な対応をしている。</p>	<p>○PTA役員による情報収集の仕組みが定着しており、園児保護者の意見集約が適切に行えている。</p> <p>○相談窓口（教頭）を設置し、保護者への周知徹底を図っている。</p>	<p>・担任は、保護者との連携を積極的にとり、丁寧な対応ができています。またその情報を保育者同士で共有し、必要に応じ教頭・園長と共に対応することで安心感を与えることができています。</p>
<p>総合評価</p>	<p>・5月より新型コロナウイルスが5類へ移行し、これまで十分に参観いただけていなかった多くの行事を制限なく公開できたことで、高い評価を得ることができたようである。今後も、園での保育実態を適時適切に公開することを心がけていきたい。</p> <p>・異年齢保育の充実を図り、互いを思いやる優しい心の醸成を図ったことは、予想以上の成果を感じる事となった。通常保育、預かり保育における連携した実施も大きな効果へとつながった。成果を生かし、今後も工夫改善を行いつつ継続していきたい。</p> <p>・担任のみならずすべての教職員が園児の情報を共有し、名前を覚え温かく接しているという評価をたくさんいただくことができた。年2回の園児情報共有や、毎月の教職員研修の充実が繋がっていることの表れであると考えられる。今後も教職員研修の充実と発展を心がけていきたい。</p> <p>また、現在取り入れている研修支援のための外部人材活用の継続も有意義である。</p>	